



発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5 (砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664

編集・発行人 大場真弥
印刷所 株式会社白橋印刷所

会員(定価1部100円) その他一般(定価1部150円)
毎月1回15日発行

平成16年度 全国治水大会 (静岡大会) 開催

とき：平成16年6月3日(木)
ところ：浜松市：アクトシティ浜松



目次

平成16年度全国治水大会 (静岡大会) 開催	1
平成16年度全国水防大会と水防演習について	河川局防災課…10

平成16年度全国治水大会静岡大会は、梅雨入り前の快晴に恵まれた6月3日(木)、全国治水期成同盟会連合会の第56回通常総会に引き続き、午後1時30分から同連合会、静岡県、浜松市ならびに静岡県河川協会が主催して開催されました。時あたかも浜名湖花博が開催中で、会場となった浜松市アクトシティ浜松には、全国から市区町村長をはじめ、1,600名余の多くの治水関係者が参加しました。

大会に先立ち、鈴木康弘(財)金原治山治水財団「明善記念館」館長による特別講演があり、引き続き大会に入りました。

まず最初に、小嶋善吉大会実行委員会委員長(静岡県河川協会会長、静岡市長)による開会の挨拶にはじまり、同氏が大会座長に推挙されて大会が進められました。

陣内孝雄全水連会長(参議院議員)、鈴木雅近静岡県副知事ならびに北脇保之浜松市長がそれぞれ主催者として挨拶し、中島正弘河川局次長が国土交通大臣の祝辞を述べ、ご臨席いただいている来賓が紹介された後、祝電が披露されました。

意見発表に移り、鹿野文永宮城県鹿島台町長ならびに佐々木清蔵広島県加計町長が、近年の治水事業のマイナス予算の打開を目指して、意見を述べられました。その後議事次第にはありませんが、*望月常好河川局治水課長から三位一体改革に向けた「治水事業の視点」についてご説明がありました。

続いて、大会決議文案を斉藤 衛静岡県河川協会副会長(沼津市長)が力強く朗読し、全会一致で採択されました。

次期開催地を長崎県と決定し、上野進一郎長崎県理事が引き受けの挨拶の後、櫻井克信静岡県土木部長が閉会の言葉を述べて、平成16年度全国治水大会静岡大会は盛会裡にその幕を閉じました。



会場風景

閉会後のアトラクションとして、浜松市の皆さんによる「やら舞歌」を鑑賞して散会となりました。

※望月常好河川局治水課長は7月1日付け、中国地方整備局長(以下同じ)

開会のことば



全国治水大会静岡大会
実行委員会会長
静岡県河川協会会長
静岡市長

小嶋善吉

ご紹介いただきました県河川協会会長、静岡市長の小嶋でございます。

本日は皆さん、ようこそいらっしゃいました。

本日、平成16年度全国治水大会をこの静岡県で開催できますことは、我々にとりましてまことに光栄なことであります。皆様方におかれましては、大変ご多忙な中を、遠路静岡県までおいでいただきましたことを重ねて感謝を申し上げます。本日のこの大会が住民生活の安定と地域社会の発展に欠かすことのできない治水・利水事業のさらなる推進に向けた実り多い大会になりますことを心から祈念をいたしまして、開会のことばといたします。

主催者挨拶



全国治水期成同盟会
連合会会長
参議院議員

陣内孝雄

一言ご挨拶を申し上げます。

本日、ここ浜松市におきまして、平成16年度の全国治水大会を開催いたしましたところ、国土交通省

河川局次長を初め多くの来賓の方々、また全国各地から治水関係事業の推進にご活躍されております市町村長ほか関係の皆様方に多数ご参集いただき、本大会がこのように盛大に開催できますことは、主催者の一人といたしましてまことに心強く、また皆様方の深いご理解とご熱意に心から敬意を表する次第であります。

本大会を開催するに当たり、格別のご高配を賜りました静岡県知事様を初め、浜松市長並びに関係の皆様に対し、厚く御礼を申し上げます。

ここ静岡県は、北に日本のシンボル富士山や、3,000メートル級の山々を有する南アルプス連峰を控え、南側には最深3,000メートル以上もある駿河トラフを抱え、急峻かつ変化に富んだ地形を有しております。県土の3分の2を占める中山間地域は、緑豊かな森林で覆われ、温暖な気候と、年平均2,300ミリという豊富な降水量に恵まれ、これらの森林で涵養される豊かな水を富士川、安倍川、大井川、天竜川等の大河川が運んでいます。このように、富士山や南アルプスが背後にあることから、急流河川が多く、一方で海岸に沿って東西に流れる河川は緩勾配で、排水に困難を来しており、過去幾度となく水害に見舞われてまいりました。

全国的には、我が国は古くから河川整備を推進してまいりましたことから、水害等に対する安全度はかなり向上してまいりましたが、21世紀を迎えた今日におきましても、その整備率は目標の半分程度でありまして、我々国民は、常に水害と背中合わせに生活をしていると、こういうことを強く認識しているところであります。近くは昨年7月初めの梅雨前線豪雨、県内では300ミリメートルを超える記録的な豪雨がございました。静岡市で時間雨量112ミリと、これは観測史上最大でありまして、県中部・東部地方を中心に、床上浸水、床下浸水家屋が約2,000棟という甚大な被害が発生したばかりであります。また全国的に見ますと、昨年7月には宮城県北部地震、8月には十勝沖地震と、立て続けに地震が発生し、国民生活に多大な影響を与えました。当地方においても東海地震が予測され、地震対策はひとときも手を抜くことは許されません。

一方、当地方は極端な渇水状況は解消されてきておりますが、近年、年間降水量の減少傾向に伴い、枯渇する河川が多く、各地で取水制限を余儀なくされるなど、市民生活に多大な影響を与えております。このため、治水施設の整備を初め、水資源対策によ

る水の安定供給や水質改善、そして水辺環境整備等を強力に推進することによりまして、活力ある、そして安全で快適な生活環境を築くことが国民の最大の使命であると信じております。

しかしながら、公共事業を取り巻く環境は一段と厳しい状況が続いております。ここ数年の間、財政状況が厳しいことから、国民の生命財産を守る上で必要不可欠な治水関係事業費が大きく削減されており、各地で治水事業が停滞することとなっております。

先般、当連合会といたしましても、平成17年度予算編成の柱となる基本方針2004に向けた緊急アピールを発し、三位一体改革の中で、治水事業が国の責務として機動的・重点的に実施してもらうために、皆様のご協力を得まして関係方面に要請を行ったところであります。引き続き平成17年度治水関係事業予算の必要額の確保に向けて強力に活動してまいる所存であります。

ご参集の皆様方の力強いご支援をお願い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。挨拶といたします。

どうもありがとうございました。



静岡県副知事

鈴木雅近

ご紹介を賜りました静岡県副知事の鈴木でございます。一言ご挨拶を申し上げます。

平成16年度全国治水大会が、全国各地から多くの方々をお迎えいたしまして、ここ静岡県におきましてこのように盛大に開催されますことを心から感謝申し上げます。また、国会議員の先生方を初め国土交通省並びに関係の皆様方には、本県の治水事業の推進に多大のご支援とご協力をいただいておりますことを、改めましてこの場をお借りしまして御礼を申し上げたいと思います。

さて、21世紀初頭の我が国の社会経済情勢は大きく変化しつつございます。こうした変化に的確に対

応する行政運営が我々には求められているというふうに考えております。静岡県では、このような時代環境の中で、県政の基本理念「富国有徳の魅力ある地域づくり」を掲げまして、この実現のために、県民の生命や安全を脅かす災害の発生を未然に防止し、被害を軽減する施策を積極的に実施するなど、社会資本の整備に努めているところでございます。

本県の河川は、その多くが富士川、安倍川、大井川、天竜川に代表される急峻な河川でございます。昭和33年の狩野川台風、昭和49年の七夕豪雨など、過去から多くの水害に見舞われてまいりました。また、先ほど会長さんのお話にもございましたとおり、去年の7月、静岡地方気象台で時間雨量112ミリという観測史上最大の雨量を記録いたしました。しかし、七夕豪雨を契機に進めてまいりました大谷川放水路等がその機能を発揮し、静岡市内の浸水被害を大きく軽減するなど、治水事業の効果も着実にあらわれているものと考えております。

こうした状況を踏まえまして、静岡県では、河川改修事業やダム事業などのハード対策を着実に推進いたしますとともに、市町村に対する洪水ハザードマップ作成の支援や、雨量・水位などの防災情報の一般市民への提供など、ソフト対策にも積極的に取り組んでおります。今後とも洪水被害の未然防止に努力いたしますので、皆様方におかれましても、引き続きご指導ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

全国からこのように大勢の方々にご参集を賜りましたので、せっかくの機会ですから、静岡県の事業の宣伝の一つさせていただきたいと思っております。

現在、浜名湖畔におきまして静岡国際園芸博覧会「浜名湖花博」が開催されております。この浜名湖花博は、国内外を合わせまして6,000品種、500万株の花々が咲き競う、世界最大級の園芸博覧会と我々は考えております。4月8日の開園以来、約200万人の方々へ昨日までごらんをいただいております。伺うところによりますと、明日多くの方々にご視察をいただけるというふうに聞きました。ぜひ花博の魅力の一端を感じ取っていただきまして、できましたらご家族の皆様で再度浜松にお越しいただき、花博をご覧になっていただければ幸いですと思っております。

結びになりますが、皆様方のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げまして、歓迎の挨拶にかえたいと思っております。ありがとうございました。



浜松市長

北 脇 保 之

ご紹介をいただきました浜松市長の北脇保之でございます。

本日は全国治水期成同盟会連合会会長の内陣先生のご出席をいただき、国土交通省の皆様、国会議員、県議会議員の皆様初め、多くのご来賓をお迎えして、当地で平成16年度の治水大会を開催できることを大変うれしく思います。開催地の市長といたしまして、全国からお出での皆様方を心から歓迎申し上げる次第でございます。

当地域は、ただいまの特別講演で紹介をさせていただきましたように、金原明善翁を初め明治の先覚者を初めとして、多くの先人の努力によって治水に努めてきております。おかげさまでこの地域は、昭和49年の七夕豪雨の水害以来、大きな水害には見舞われておりませんが、全国の他都市と同様に、都市部の浸水対策など、治水の課題はたくさんございます。

そしてさらに、ただいまこの地域は12市町村の合併に取り組んでおりまして、これが実現いたしますと、北は長野県境の森林部から、西は愛知県境まで含む、面積1,500平方キロの大きな市が誕生することになってまいります。そうしますと、今まで以上に、市として治水に取り組む、その責務が大きくなると認識をしているところでございます。そうした中、ただいま国土交通省におかれましては、天竜川の佐久間ダムを初めとするダム再編事業に予算化という形で手をつけていただいていることを大変強く思っている次第でございます。

このように、当地域も治水の課題がいろいろございますので、全国の皆様と一緒に連携をとりながら、治水期成同盟会の効果を上げるということで取り組まさせていただきたいと思っている次第でございます。本日の大会がそうしたことの大きなきっかけになれば大変幸に存じます。

また、このたび浜松にお越しいただきましたので、短い滞在かと思いますが、この浜松のよさを存分に

味わっていただければというふうに願っている次第でございます。

浜名湖花博につきましては、今、静岡県副知事さんからご紹介があったとおりでございますので、是非とも明日はゆっくりご覧いただきたいと思えます。そして、この浜松の地域は、ウナギで有名ですが、ウナギだけではなくて、昨年からは遠州灘とれるトラフグを当地域の名産ということで売り出しております。そして、今年はまだ遠州灘ではハモもとれるということで、ハモも名物化しようというようなことで取り組んでおります。こうした海のもののだけではなくて、農産物も大変豊かにとれる地域でございますので、そうしたこの地域の特産品もぜひとも味わっていただきたいと思えます。皆様が本当に楽しく過ごしていただけますように、私ども開催地として精いっぱい努めさせていただきます。

結びになりましたが、本日の大会のご成功と、ご列席の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げまして、歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

来賓祝辞



国土交通大臣代理
国土交通省河川局長

中島正弘

国土交通省の河川局長をしております中島と申します。大臣、所用のため出席ができません。大臣の祝辞を預かってまいっておりますので、ご紹介させていただきます。

本日ここに平成16年度全国治水大会が開催されるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

ご列席の皆様には平素から国土交通行政の推進につきまして多大なるご支援ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

我が国は地理的条件や気象条件などから、洪水・渇水を受けやすい環境にあり、全国各地で毎年のように大きな災害に見舞われております。また近年、

地球規模の環境変化によって、世界各地で大雨や大干ばつなどの異常気象が多発しており、21世紀の大きな問題として懸念されております。我が国においても、昨年7月に九州地方を襲った梅雨前線による豪雨、8月に上陸した日本列島を縦断した台風10号などにより、全国各地で大きな被害が発生をいたしました。今年も梅雨や台風などによる雨に十分な警戒をするとともに、出水時の対策に万全を期す必要があります。また一方では、近年の少雨化傾向と国民の生活水準の向上により渇水が起りやすい状況にあり、各地で取水制限が行われるなど、渇水による被害が発生し、国民の日常生活に大きな影響を及ぼしております。

一方、厳しい財政状況を背景に、もろもろの改革が議論されているところでありますが、治水事業はこのような自然災害から国民の生命と財産を守り、経済活動を支える最も根幹的な基盤を整備する事業であります。したがって、長期的な視点に立ち、気候変動の状況も見きわめつつ、適時適切に推進していくことが必要であります。

現在進められている改革を成功させるためには、まず第1に、改革がそれぞれの地域の治水の現状をきちんと踏まえたものになるようにしなければなりません。第2に、21世紀の重大課題であります気候変動の状況を、国内的にも世界的にも的確にとらえつつ、これらに起因する自然災害から国民の生命と財産を守るといふ、安全・安心の国土づくりに重点を置いたものとしなければなりません。そして第3に、国と地方がしっかりとスクラムを組み、機動的に対処していけるような仕組みを確保していかなければなりません。

今後とも国土交通省といたしましては、豊かな生活環境と美しい自然環境の調和した、安全で活力ある経済社会を実現するため、治水施設の整備やハザードマップの整備など、ハード・ソフト両面からの整備を計画的・重点的に推進してまいり所存でありますので、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日、全国各地の治水・利水事業に携わる方々が一堂に会され、治水大会が開催されますことはまことに意義深いことであり、皆様の貴重なご意見を今後の施策に十分反映させてまいりたいと考えております。

終わりに、本日ご列席の皆様への治水事業に対するご尽力に改めて敬意を表しますとともに、今後また

ますのご発展とご健勝を心から祈念いたしまして、
私のお祝いの言葉といたします。

平成16年6月3日

国土交通大臣 石原伸晃 (代読)

来 賓 紹 介

— 順不同・敬称略 —

衆議院議員 (代理)

大 口 善 徳	城 内 実
塩 谷 立	柳 澤 伯 夫
山 本 明 彦	

参議院議員 (代理)

榛 葉 賀津也	竹 山 裕
山 下 善 彦	

国土交通省河川局次長	中 島 正 弘
国土交通省中部地方整備局長	村 田 進
国土交通省河川局治水課長	望 月 常 好
静岡県議会議長	奥之山 隆
静岡県議会建設委員会委員長	杉 山 盛 雄
浜松市議会議長	柳 川 樹一郎
浜松市河川・橋梁整備促進特別委員会委員長	松 下 福治郎
静岡県町村会会長 小笠町長	黒 田 淳之助
静岡県市議会議長会会長 沼津市議会議長	沼津市議会議長
静岡県町村議会議長会会長 春野町議会議長	鈴木 秀 郷
	岡 本 均

祝電ありがとうございました

— 順不同・敬称略 —

衆議院議員

池 坊 保 子	植 竹 繁 雄
大 口 善 徳	岡 本 芳 郎
奥 村 展 三	金 子 恭 之
上 川 陽 子	亀 井 久 興
木 村 義 雄	城 内 実 年
北 村 誠 吾	倉 田 雅 年
小 池 百合子	小 泉 龍 司
小 島 敏 男	小 林 興 起

齊 藤 斗志二	櫻 田 義 孝
塩 谷 立	下 条 み つ
白 保 台 一	鈴 木 淳 司
鈴 木 康 友	田 村 憲 久
竹 本 直 一	棚 橋 泰 文
谷 畑 孝	土 屋 品 子
中 川 昭 一	中 村 正 三 郎
中 山 太 郎	長 勢 甚 遠
鳩 山 邦 夫	伴 野 豊
平 井 卓 也	平 田 耕 一
福 井 照	藤 井 孝 男
古 本 伸一郎	保 坂 武
牧 野 聖 修	松 本 純
三ツ林 隆 志	三ツ矢 憲 生
宮 下 一 郎	武 藤 嘉 文
森 英 介	柳 澤 伯 夫
山 口 俊 一	山 口 泰 明
山 本 明 彦	山 本 拓
山 本 有 二	吉 野 正 芳
若 井 康 彦	渡 辺 周
渡 辺 博 道	

参議院議員

荒 木 清 寛	入 澤 肇
魚 住 汎 英	海 野 徹
小 野 清 子	片 山 虎之助
金 田 勝 利	北 澤 俊 美
清 水 達 雄	榛 葉 賀津也
関 谷 勝 嗣	田名部 匡 省
田 村 公 平	竹 山 裕
橋 本 聖 子	服 部 三男雄
日 笠 勝 之	山 下 八洲夫
山 下 善 彦	山 本 保
脇 雅 史	



祝電コーナー

意見発表と「治水事業の視点」の説明

治水事業のマイナス予算の打開をめざし

鹿野文永（宮城県鹿島台町長）

加計町における治水事業と温井ダムについて

佐々木清蔵（広島県加計町長）

治水事業の視点

望月常好（国土交通省河川局治水課長）

以上の方々の意見発表と「治水事業の視点」の説明は、治水6月号に取り急ぎ掲載させていただきましたので、6月号をご参照下さい。

大会決議



静岡県河川協会副会長
沼津市長

齋藤 衛

静岡県沼津市長の齋藤でございます。それでは決議（案）を朗読させていただきます。

決 議

わが国は、そのおかれた気象条件、地形条件の厳しさから、治水事業の推進は国家の最重要課題であり続けてきた。これまでの努力の積み重ねにより、我が国の治水安全度は向上してきたとはいうものの、21世紀の今日において決して満足すべき状況にないことは、毎年、全国各地において水害が発生し、幾多の生命と財産が失われているという事実が物語っている。

昨年も7月の梅雨前線豪雨により、福岡市等の九州北部を中心として、6千戸以上の家屋が床上浸水等の被害を受けたほか、8月には台風10号が日本列島を縦断し、北海道では死者・行方不明者11名、浸水家屋数5百戸以上という大きな被害が発生する等、各地に多くの爪痕を残した。

我々は、わが国土が、水害をはじめとして、土砂災害および渇水等の自然災害に対し、極めて脆弱であるにもかかわらず、堤防およびダム等の治水・利水施設の整備水準が極めて低いことを改めて認識しなければならない。

それにもかかわらず、この数年の間、財政状況の厳しさによるものにしても、国民の生命・財産を守るうえで必要不可欠な治水事業費が、大きく縮減されていることは、全く憂慮に堪えない。

ここに、我々は、全国治水大会を開催し、その総意に基づき、21世紀にふさわしい安全で安心な美しい国土づくりが推進されるよう、次の事項の実現について、国会

ならびに政府に対し強く要望する。

記

一、社会資本整備重点計画に基づき、国民の生命・財産を守り、国民生活の安定のため、ハード及びソフトの両面にわたる治水事業を強力に推進すること。

一、この5月に施行された特定都市河川浸水被害対策法に基づき、特定都市河川の指定および流域水害対策計画の策定等を進め、都市河川の浸水被害対策を推進すること。

一、安定的な水の供給を図るため、水資源開発を推進すること。

一、本体工事中のダム事業等、予算を抑制した場合に工期が遅延し総事業費が増加する事業については必要額を確保すること。また、予算の効率的な執行を可能とするため、年度途中における予算の流用をより円滑に行えるようにすること。

一、大規模地震対策として、河川における津波対策やゼロメートル地帯等の河川堤防の耐震対策を推進すること。

一、ハザードマップの整備を促進するとともに、水情報国土の構築により、迅速な危機管理ができる体制を確立させること。

一、自然再生事業を推進するとともに、河川を巡る多様

なニーズに応える河川環境整備を推進すること。

- 一、治水事業に関わる公共事業費は、既に景気対策を行った以前の水準を割り込んでおり、各地で治水事業の停滞による弊害が生じていることに鑑み、平成17年度治水関係事業費について、その必要額の確保を図ること。
- 一、治水事業に関わる国庫補助負担金は、国民の生命・財産を守るうえで必要不可欠のものであることに鑑

み、その削減により安全・安心な地域社会の構築に支障を及ぼすことのないよう、最大限配慮すること。

以上決議する。

平成16年6月3日

全国治水大会

次期開催地あいさつ



長崎県土木部理事

上野 進一郎

ご紹介いただきました長崎県土木部の上野でございます。次期開催県を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

初めに、わが長崎県を来年度の全国治水大会の開催地として決定していただきましたことにつきまして厚くお礼を申し上げます。

昭和24年に第1回全国治水大会が開催されて以来、長崎県において初めて全国治水大会を開催することができますことは、このうえのない喜びでございます。

長崎県は昭和57年の長崎大水害、また平成の雲仙普賢岳噴火災害など、多くの自然災害に見舞われてきました。平成3年の今日、6月3日には、雲仙普賢岳の大火砕流により多くの尊い人命が奪われました。ここに改めて全国の皆様方からいただきましたお見舞いのご支援に対しまして、心から感謝を申し上げますとともに、来年、多くの皆様方にご来県いただきまして、長崎県の現在の姿をごらんいただきますことが何よりのご恩返しであると存ずる次第でございます。

さて、来年度の大会につきましては、6月2日の開催を予定いたしております。会場は長崎県北部地域の中心都市佐世保市を予定いたしております。佐世保市は九十九島など風光明媚なことで有名な、来年50周年を迎える西海国立公園、そして新たな進化

を遂げる九州を代表する観光地ハウステンボスなど、さまざまな魅力にあふれる街です。初めての大会ではございますが、観光県長崎としてご来県いただきました皆様方に長崎県の良さを感じていただくことができますよう、おもてなしの心をもって準備に努めてまいります。何とぞ多くの皆様方にご来県いただきますよう、心からお待ち申し上げます。

終わりに、全国治水大会の今後ますますのご発展並びに本日ご出席の皆様方のなご一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、次期開催県のご挨拶とさせていただきます。

閉会のことば



静岡県土木部長

櫻井 克信

本日は全国各地からこの地にお集まりいただき本大会に参加していただきまして、本当にありがとうございました。おかげさまをもちまして成功裡のうちに終了することができます。

この後、アトラクションの「やら舞歌」が皆さん、こちらで準備されておりますので、お時間の許す方々、是非ご覧になっていただきたいと思っております。この大会が、今後の治水事業、利水事業の着実な進展につながっていきますことを願っております。

先ほど、今夜と明日の天気予報を確認いたしまして、日本全国、それほど大きな雨が降るという予報は出ておりませんので、今夜、また明日の現地見学

等につきましては、ご安心してごゆっくりご見学をお願いしたいと思います。

なお、花博につきましては、展示内容についてご覧いただくのはもちろんでございますけれども、ベンチとかトイレの配置、またその内容、施設内容ですね。あと歩道の舗装の状況等も是非ご覧いただきたいと思っております。ユニバーサルデザインというような観点でいろいろ工夫してるところでございますので、その辺もご覧いただきたいと思っております。

最後になりますが、この大会にご参加いただきました皆様の今後のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、平成16年度全国治水大会静岡大会をこれにて閉会いたします。本当にありがとうございました。

特別講演



講演の内容は、割愛させていただきました。

講師 鈴木康弘 先生

演題 明善翁の天竜川にかけた情熱
～明善翁の精神に学ぶ～

プロフィール

氏名 すずきやすひろ

生年 1935年

出身地 神奈川県横浜市

略歴

1960年3月 愛知大学法経学部法学科卒業

同年 浜松市役所教育委員会に勤務

1996年 浜松市中央図書館を定年退職

2001年1月 明善記念館に勤務・館長に就任
現在に至る

現地視察

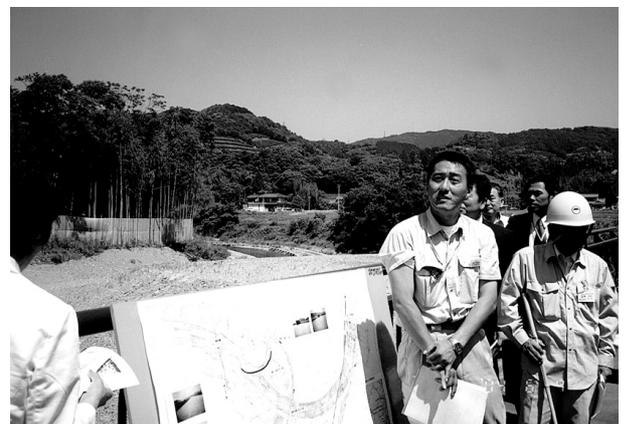
全国治水大会静岡大会の翌4日は、快晴のもと治水関連施設の視察として、静岡県西部地区を4コースに分かれて、約460名が各バスに分乗して現地視察を行いました。

1. 新川放水路とユーテラス
2. 都田川改修・神宮寺川促進と竜ヶ岩洞
3. 天竜川水辺の楽校・太田川ダムとアクティ森
4. 下小笠捷水路と逆川みずべプラン

いずれのコースも、車中では県添乗職員から事業の概要説明を聞き、現地では事業の担当職員による説明を受けました。



都田川河川改修



都田川河川改修

平成16年度全国水防大会と水防演習について

河川局防災課

1. 全国水防大会開催される

全国水防管理団体連合会（会長：陣内孝雄参議院議員）主催の平成16年度全国水防大会は、5月12日（水）午後2時から東京都千代田区内、東条インペリアルパレスにおいて、全国から市町村長のほか水防関係者ら300余名が参加して開催された。

はじめに、陣内孝雄会長が、「水防団員による洪水等の熱意ある水防活動により、水害防止に多くの成果を挙げている。政府においても治水事業の一層の推進を図り、水災防止対策の強化充実を切望する。」と挨拶。

来賓として石原伸晃国土交通大臣（代理：清治真人河川局長）ならびに林省吾消防庁長官（代理：喋野消防庁審議官）が祝辞を述べ、続いて出席された来賓の紹介の後、祝電が披露された。

水防功労者の表彰に移り、団体としては、平成15年7月梅雨前線による出水に際しての水防活動の功績により、佐賀県多久市消防団が、また、平成15年11月末豪雨による出水に際しての水防活動の功績により、大分県鶴見消防団がそれぞれ表彰された。

個人としては、岩手県内の二戸市消防団附分団長をはじめ、全国16府県31名の水防団員の方々が表彰

された。

次に、中村真河川局防災課長から「水災防止対策の強化について」というテーマで、水防団の必要性を訴えられた。

意見発表では、藤田貢佐賀県多久市消防団長が「平成15年多久市の水防活動について」を発表された。

最後に、藤森英二全国水防管理団体連合会副会長（福島県郡山市長）が朗読した大会決議文案は、満場一致で採択され、盛会のうちに幕を閉じた。

以下、平成16年度水防功労の表彰者を紹介する。



【個人（表彰規定第2条第1号）】

都道府県名	氏 名	団 体 ・ 役 職 名
岩 手 県	川 村 義 孝	二戸市消防団 団附分団長
福 島 県	目 黒 紘	只見町消防団 団長
福 島 県	渡 部 武 治	田島町消防団 団長
群 馬 県	齊 藤 禎	前橋市消防団 団長
埼 玉 県	野 村 吉太郎	荒川北緑水防事務組合熊谷水防団 副団長
神 奈 川 県	風 間 国 久	平塚市水防本部岡崎分団 分団長
長 野 県	小 林 長 雄	佐久市消防団 副団長
石 川 県	谷 兵五郎	輪島市消防団鶴巣分団 分団長
岐 阜 県	森 勝 彦	木曾川右岸地帯水防事務組合米野水防団 団長
岐 阜 県	青 木 和 雄	羽島市水防団正木分団 分団長
岐 阜 県	三 宅 治 男	高須輪中水防事務組合水防団海西分団 班長
静 岡 県	青 島 愛 尚	磐田市消防団 副団長

都道府県名	氏 名	団 体 ・ 役 職 名
愛 知 県	加 藤 鑑	瀬戸市消防団 団長
愛 知 県	谷 川 章	愛知県尾張水害予防組合第2水防団 団長
愛 知 県	澤 村 三千雄	津島市消防団 団長
愛 知 県	鈴 木 豊 美	西尾市水防団第12分団 分団長
愛 知 県	鈴 木 淳 一	旭町消防団 団長
京 都 府	中 西 幸 夫	淀川・木津川水防事務組合向島水防団 副団長
京 都 府	吉 村 敏 和	京田辺市消防団 副団長
大 阪 府	石 原 晃	淀川右岸水防事務組合水防団西淀川第4水防区 分団長
大 阪 府	西 田 甚 作	淀川左岸水防事務組合水防団八雲水防区 分団長
大 阪 府	植 田 博 富	岸和田市水防団 副団長
鳥 根 県	河 原 基	平田市消防団 副団長
福 岡 県	谷 山 盛 男	矢部村消防団 団長
福 岡 県	池 田 茂 孝	前原市消防団 団長
佐 賀 県	深 川 文 長	佐賀市消防団嘉瀬分団 分団長
佐 賀 県	貞 方 喜 延	伊万里市消防団 副団長
佐 賀 県	重 田 信 幸	富士町消防団 団長
佐 賀 県	中 村 清 彦	多久市消防団 副団長
鹿 児 島 県	橋 野 昭 麿	鹿島村消防団 団長
鹿 児 島 県	久 保 田 末 美	吉松町消防団中津川分団 分団長

【団体（表彰規定第2条第2号）】

都道府県	団 体 名	功 績 概 要
佐 賀 県	多久市消防団	平成15年7月梅雨前線豪雨による出水に際しての水防活動
大 分 県	鶴見町消防団	平成15年11月末豪雨による出水に際しての水防活動

2. 平成16年度水防演習の実施状況

出水期を前にした5月（北海道は6月）を「水防月間」と定め、水防意識の高揚や水防体制の充実強化を図るため、各種広報活動を行い、また、水防演

習等も実施しているところである。

本年度も、全国各地で下記のとおり水防演習が実施された。

演 習 名	実 施 日	実 施 場 所	参加人数	備 考 ・ 特 色
白川・緑川水防演習	5月16日(日)	熊本県熊本市	—	降雨により中止
利根川水系連合水防演習	5月22日(土)	栃木県宇都宮市	24,000	過去2番目の参加者数
木曾三川連合水防演習・愛知県総合防災訓練	5月23日(日)	愛知県尾西市	1,992	愛知県防災訓練と同時開催
吉野川水防演習	5月23日(日)	徳島県美馬郡美馬町	2,320	NHK徳島による報道訓練実施
阿賀野川水防演習	5月29日(土)	新潟県新潟市	4,500	新潟市で初の開催
円山川流域・但馬地域合同水防演習	5月29日(土)	兵庫県豊岡市	1,900	一般公募による水防活動体験
江の川（下流）水防演習	5月30日(日)	鳥根県江津市	621	小学生による土のう作り

演習名	実施日	実施場所	参加人数	備考・特色
雄物川水防演習	6月5日(土)	秋田県大曲市	6,514	川倉工法を実施
手塩川水防公開演習	6月19日(土)	北海道名寄市	3,728	道路管理者、学校、企業、NPOとの連携

1. 参加人数は、概数である。
2. 備考・特色の欄は、紙面の都合で一項目のみとした。

平成16年度水防演習から

(5月22日(土)利根川水系連合水防演習：栃木県宇都宮市)



シート張り工



積み土のう工



五徳縫い工



木流し工